

可茂農林事務所の普及活動状況（4月）

今月の重点活動

■美濃白川就農応援会議 移住相談員との意見交換会

4月8日、美濃白川就農応援会議のあすなる農業塾長とぎふ移住・交流センター相談員（東京・名古屋・大阪）との意見交換会が白川町で開催され、塾長4名、相談員3名と農林事務所等関係機関が出席しました。

新規就農のための研修生募集に力を入れる当会議が、地域や農業の現状、研修生の受入れ状況など、現地生情報を相談員に伝えることを目的に、可茂農林事務所と共同企画しました。

当日は、トマト生産者の栽培ほ場で農業の現状を説明し、また、農業研修交流施設「黒川マルケ」において有機農業の移住者も交えて活発な意見交換が行われました。

農業普及課では、今後も研修拠点の活動を積極的に支援していきます。

（地域支援第二係・加藤昌亮、園芸産地支援係・永田真一）



【意見交換会の様子】

新たなブランドづくり

■栗 管内で徐々に進む新改植

可茂管内は古くからの栗の産地ですが、近年は樹も老木化し、新植や改植もほとんど行われていませんでした。農業普及課は講習会において、すべての始まりとなる苗木の定植についての説明をこの3年間実施しており、毎年少しずつ新改植を行う人が出てきています。これまで樹が枯れて空が目立っていた八百津町や可児市の栗園も徐々に新たな苗木で埋まり、数年後の収穫を待っています。

農業普及課では、さらに新改植を推進して、生産量の増加につながるよう支援していきます。

（園芸産地支援係・宮田洋輔）



【老木が枯死した跡に植えられた苗木】

多様な担い手づくり

■担い手リーダー 可茂地区指導農業士会通常総会、4Hクラブ連絡協議会通常総会

4月24日、可茂地区指導農業士会通常総会が開催されました。事業計画では、昨年度に引き続き、担い手候補となる農大生や農業高校生への指導、支援活動に力を入れていくほか、今年度は中濃ブロック研修会の開催を行っていきます。

また、4月10日、可茂地区4Hクラブ連絡協議会通常総会が開催されました。本年度も、恒例行事となっている農大生との交流会「若人のつどい」を開催することとなりました。青年農業士に認定された2名が4Hクラブを脱会したため、本年度の会員は4名と減少しており、青年農業士会と連携しながら行事を開催していくことが決定されました。

また、4月11日には、岐阜県4Hクラブ連絡協議会の総会が開催され、本年度の県連会長に、美濃加茂市のなし生産者である山田裕一朗さんが選任されました。

農業普及課では、今後も担い手リーダー活動を積極的に支援していきます。

（地域支援第二係・加藤昌亮、黒川純子）



【指導農業士総会の様子】

■いちご **就農につなげたい！農大校2年生の校外学習を受け入れ**

美濃加茂市、可児市、富加町及び川辺町で18軒の農家が促成いちご栽培に取り組んでおり、名古屋北部市場及び可茂公設市場のほか管内の直売所へ出荷販売しています。

4月24日に、可茂農林事務所が、県農業大学校でいちご栽培を中心に学習している野菜・果樹学科の学生の校外学習を受け入れて、管内のいちご栽培状況説明や新規いちご栽培農家2軒の栽培について紹介しました。

校外学習に参加した学生の中には可茂管内での就農を希望している者もいて、熱心に農家さんの施設や栽培や出荷調整作業について学んでいました。

農業普及課では、管内での就農を希望する学生に対して、希望が現実化するよう農業大学校と連携して支援していきます。

(園芸産地支援係・熊澤良介)



【複合環境制御について説明を聞く学生たち】

売れるブランドづくり

■夏秋なす **夏秋なす栽培前研修会**

当地域で振興している夏秋なすの5月の定植を前に、基本的な栽培技術を今一度確認するため、4月23日に「夏秋なす栽培前研修会」がJAめぐみのみのかも営農経済センターで行われ、約15名の生産者が参加しました。

農業普及課からは、定植前後の管理や防除技術等の説明を行いました。生産者から盛んに質問が出る等、活気に満ちたやり取りが行われました。

今シーズンは、新規の部会加入者が過去最高の6名となり、部会員も過去最高の20名となる等、生産振興が期待できます。

農業普及課では、今シーズンの栽培が順調に行われるよう、新規栽培者を中心に巡回や栽培指導等を行っていきます。

(地域支援第一係・三輪俊貴)

■花き **鉢物フランネルフラワー岐阜県オリジナル品種リトルエンジェル**

美濃加茂市と可児市の鉢物農家では、岐阜県オリジナル品種フランネルフラワー‘リトルエンジェル’生産を行っています。岐阜県では同品種の高品質生産を目指し、農業経営課が中核となり、各農業普及課や農業技術センターと連携を取りながら現地実証を進めています。

半年ほど前の鉢上げ時から、隔週で鉢からの溶脱水と生育の調査を続け、肥培管理栽培管理の支援を継続してきました。

可茂地域では従来の出荷目標期間より遅くなりますが、鉢物の売れ行きが良い5月からの出荷を目標に、栽培管理を進めてきましたが、可児市の鉢物農家では4月中旬に出荷可能な開花状況となり、随時出荷が予定されています。

今後も各鉢物農家の出荷目標に向けて高品質生産となるよう継続支援していきます。

(園芸産地支援係・熊澤良介)



【開花が始まったリトルエンジェル】